

糸魚川市理科教育センター

広報理セン

平成26年度 第 16 号(通算293号)

発行 平成26年 11月 13日(木)

TEL・FAX : 025-552-2241

E-mail:rika@city.itoigawa.niigata.jp

HP: [https://www.city.itoigawa.lg.jp/](https://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=5329)

[dd.aspx?menuid=5329](https://www.city.itoigawa.lg.jp/dd.aspx?menuid=5329)



## 上越理セン合同野外研修



[青海ヒスイ峡の巨大ヒスイの上で]

標記の研修会を、9月20日(土)青海川にて行いました。講師に、糸魚川ジオパーク認定ガイド古見浩さんをお招きしました。まず、青海電化工場そばから黒姫山を見上げ、石灰岩の特徴や石灰岩の山の誕生についてお話を伺いました。次に、清水倉でフズリナ化石を含む石灰岩の採集を行いました。その後、橋立から林道や青海川の河床を金山の出会いまで歩きました。途中、古見先生より、結晶片岩の露頭や川原の石について丁寧に説明をいただきました。ヒスイや結晶片岩を運んできた蛇紋岩や化石を含ん

でいる来馬層群から崩れてきた泥岩など、一つ一つ石を確かめながら学習しました。金山の出会いでは、パンニングに挑戦しました。最後は、青海ヒスイ峡でラベンダー色の美しいヒスイの上で記念撮影となりました。

## 糸西自然友の会:フィールドワーク 大平川地層・化石調査



[手取層群の露頭で説明する講師久保先生]

9月27日(土)糸西自然友の会主催フィールドワーク「大平川(だいらがわ)化石調査」を行いました。参加者は、小学生4名を含む総勢13名。講師を、黒部市吉田科学館学芸員の久保貴志先生にお願いしました。久保先生の案内で、大平川を案内していただきました。

まず、手取層群(手取層群は今から一億数千万年前の中生代、ジュラ紀から白亜紀の地層で、富山県の他に福井県、石川県、岐阜県にも分布しています。)の露頭で、「この地層からは一億数千万年前に生きてい

た植物化石、貝の化石などさまざまな化石が見つかります。その中で最も注目をあびているのが恐竜の化石です。とくに福井県の手取層群からは恐竜の化石がたくさん見つかっています。」などの説明を聞きました。その後、大平川を遡りながら要所々で、クロスラミナや地層のできる様子を説明していただきました。

最後は、川原に降りて全員で化石調査に取り組みました。来馬層群（大平川周辺の山々には、ジュラ紀前期の内湾～河川にたまった来馬層群が分布しています。この地層からは、アンモナイト化石が産出します。）から崩れ流れ出た黒い頁岩を割ると、貝やソテツ・トクサ・イチョウ・シダ等の植物化石を見つけることができました。もしかしたらアンモナイトもと期待は高まりました。数多くの貝化石や植物化石を発見し、無事調査を終了しました。

## 糸西自然友の会：秋の探索会



【採集したキノコについて解説する講師の皆さん、左から3人目：宮崎洋一さん、4人目古畑伸一さん】

10月11日（土）森林公園を会場に糸西自然友の会主催「秋の探索会」（キノコ学習会）を実施しました。遠く上越より駆けつけた会員をはじめ、保育園児からベテランまで19名が和気あいあいと秋の1日を満喫しました。恒例のキノコ学習には、講師に古畑伸一さん、宮崎洋一さんをお願いしました。林の中を案内していただきながら、発見したキノコを手にとって詳しく語っていただきました。

発見したキノコは、次の25種です。

フクロタケ、ホウライタケ、スギエダタケ、キツネタケ、ホウライタケの仲間、クサヒメホウキタケ、ソウメンタケ、センボンクズタケ、ムササビタケ、ウマノケダケ、カワラタケ、ハチノスダケ、シワタケ、キイロヒメボタンタケ、コウバイタケ、ウラベニホテイシメジ、オオシビレタケ、クサウラベニタケ、ドクベニタケ、カワムラフウセンダケ、ネズミシメジ、アラゲキクラゲ、ムラサキフウセンタケ、シロハカワラタケ、フウセンタケです。



【名前の通りスギの枝からでているキノコ「スギエダタケ」】



【右「ウラベニホテイシメジ（食用）」左「クサウラベニタケ（毒）」よく似ています！注意！】